

- ドバイ交通局を訪問し、エア・タクシーやMaaSアプリケーションなどの公共交通分野の新しいサービス・技術の導入とそのための仕組み・制度について説明を受け、スタートアップとの連携方法や先端技術の実装方法等について意見交換を行った。
- スマートドバイオフィス(SDO)を訪問し、データプラットフォームとその利用に係る全体の仕組み、および同オフィスが主導するドバイ政府のデジタル・トランスフォーメーション(デジタル技術・ソリューションによる変革)について説明を受けた。
- 砂漠の中にあるスマートシティ「サステナブルシティ」を訪問し、事業者より開発コンセプトの説明を受け、自家用車侵入禁止のシティ内を電動カーで移動し、野菜工場や省エネ性能の高い住宅等を視察した。

## 【取組の概要】

- 2013年にドバイ首長国首相・UAE首相のシェイク・モハメド・ビン・ラシド・マクトゥーム氏が、スマートドバイ・プロジェクトの構想を発表。その目的は「ドバイを世界で最も幸せな都市にすること」

スマートドバイ  
プロジェクト  
(2013)

①ペーパーレス、②AI活用原則・倫理、③AI研究、④スタートアップ支援、⑤幸福度指標の作成と計測、⑥ブロックチェーン、⑦他のスマートシティとのネットワークの7分野で取組が進む。

ドバイデータ法  
(2015)

政府データの統合オープンデータベース構築や、民間においてもデータシェアの文化を醸成するために、政府の義務やデータ利用に係る取扱い方針を定める。

スマートドバイ  
戦略プラン  
(2017)

ドバイをスマートシティに転換するために6本の柱(\*)に沿って100のイニシアチブを立ち上げる。  
(\*)交通、通信、インフラ、電力、経済サービス、都市計画

ドバイ・フューチャー・  
アクセラレーターズ

ドバイ・フューチャー・ファンデーション(政府機関)が、世界中の新技术をドバイで実際に導入するためのプログラムを運営。RTAやスマートドバイオフィスもこのプログラムを利用して実証を実施



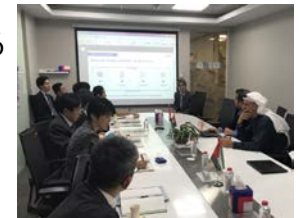
導入が検討されているエアタクシー



Dubai Pulse(SDOによるオープンデータのダッシュボード：ドバイ内における移動データの例)

## ドバイ交通局(RTA)

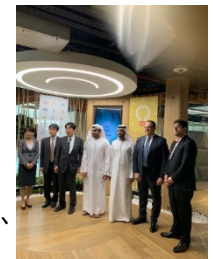
- 2005年に設立した政府機関で、ドバイにおける交通計画、規制、認証登録等の実務を担当
- エア・タクシー等の新しいサービスや最先端の技術の導入を進めるため、アクセラレーターズ・プログラムを活用し世界中のスタートアップ企業から提案を公募して事業化を推進



訪問時の様子

## スマートドバイオフィス(SDO)

- 民間セクターと政府機関との連携の下、住民と来訪者に対し、効率的で調和した、安全でインパクトのある都市の体験を可能とし、提供し、推進することを目的として2015年に設立
- 経済、生活者サービス、電子政府、持続可能な都市、住民間のコミュニケーション、モビリティの各分野のスマート化を主導。



訪問時の様子

## サステナブルシティ

- ドバイ都心から約30km南方に位置し、面積約46haに及ぶニュータウンが形成
- 500戸の住宅、リハビリ施設、モスク、学校、商業施設などのいずれも環境に配慮した省エネ性能の高い建築物が特徴
- 開発・運営をダイヤモンド・デベロッパーズ社が手掛ける



サステナブルシティの模型

- スマートネーションを各省庁と連携して推進している首相府直下の政府技術庁を訪問し、担当者よりスマートネーションの概要について説明を受け、過去に直面した課題や組織体制等について意見交換を行った。
- 政府機関の計画策定のためのデータの共有や分析を行う都市再開発庁のDigital Planning Labを訪問し、担当者より提供するデータベースやアプリの説明を受けた後、情報取得の方法、組織体制等について意見交換を行った。
- 南洋理工大学エネルギー研究所を訪問し、担当者よりEco Campus（2025年に敷地内のエネルギー消費を半分にすることを目標）やマイクログリッドの実証実験、自動走行やドローン配送のプロジェクトに関する説明を受けた。

【シンガポールにおける取組の概要】

- 2014年にリー・シェンロン首相が国家戦略として、ICTを積極導入し、経済や生活水準の向上を目指す「スマートネーション（Smart Nation）」構想を発表
- 身分証明書の電子化、E-Payments、センサの統合プラットフォーム、アーバンモビリティ、シームレスな行政サービスの5分野で推進



スマートネーションのロードマップ

- E-Payment領域では、全国標準のQRコードを設定し、携帯番号と銀行口座番号をもとに決済を共通プラットフォームで可能に



決済のイメージ



SGQR:  
Nationwide QR  
Code Standard

シンガポールの共通QRコード

政府技術庁(GovTech)

- スマートネーションを技術面でリードするために、各省庁のICTチームや外部人材を統合して組織された専門化集団
- 首相府の下に設置され、省庁と連携してスマートネーションを推進



訪問時の様子

都市再開発庁 (URA)  
Digital Planning Lab

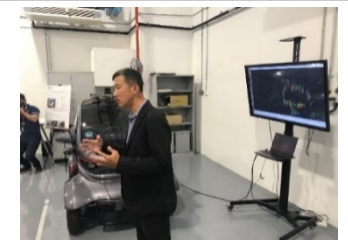
- ビッグデータによる効率的な計画策定、生産性向上・価値創造を目的に組織化
- 省庁横断的にデータを収集・整備し、ePlanner等のプラットフォームで最新情報や分析結果を政府内で共有



訪問時の様子

南洋理工大学エネルギー研究所

- エネルギーや都市の課題解決の研究のために2010年に設立
- R&D加速化のため、外の研究機関や大学との連携を積極的に推進
- Eco Campus やREIDS※1、CETRAN ※2等の事業を民間企業との連携で実施



自動走行プロジェクトの紹介

※1 : Renewable Energy Integration Demonstrator Singapore (再生可能エネルギーの実証事業)

※2 : Centre of Excellence for Testing & Research of Autonomous Vehicles NTU (自動走行の調査・実証に係る研究拠点)



- ウォーターフロントトロントを訪問し、担当者からキーサイド(Quayside) 地区の再開発計画「サイドウォークトロント」の概要や運営体制、サイドウォークラボ社との役割分担、現在の計画策定状況について説明を受け、データ管理等について意見交換を行った。
- サイドウォークラボ社を訪問し、担当者から市民の参加状況やプロジェクト予定地で活用を見込む最新技術の説明を受けた。
- 「サイドウォークトロント」プロジェクトに関係のある有識者から、プロジェクトにおいて論点となっている個人情報・データの取扱いに関する課題について説明を受けるとともに意見交換を行った。

【トロントにおける取組の概要】

- 2017年にウォーターフロント地区の再開発を展望するウォーターフロントトロントは提案依頼書(RFP)を公開し、サイドウォークラボ社が受託。両者間で包括協定が締結され、キーサイド地区の再開発プロジェクト「サイドウォークトロント(Sidewalk Toronto)」が開始
- 持続可能な都市開発の実現を目指し、その実現の手段として、モジュール化した木造建築、ゴミの自動収集、および各分野におけるデータ活用など最新技術の活用を見込む
- 2019年春に再開発計画 (Master Innovation and Development Plan) を発表予定



開発地区の現状 (視察にて撮影) と開発イメージ



建築物に活用予定の木製パネル



ゴミ自動収集システムイメージ

サイドウォークラボ社  
(Sidewalk Labs)



- ウォーターフロントトロントのパートナーとして再開発を担っている
- 都市の設計、デザインに強みを持っている
- 開発中のキーサイド地区に本社兼交流スペース (307) を構える



ウォーターフロントトロント  
(Waterfront Toronto)



- ウォーターフロント地区の再開発を担う政府機関
- プロジェクトの予算執行や進捗管理など、事務局の役割を果たしている (職員は現在99名)



プロジェクト関係者へのヒアリング

- プロジェクトに関与した経験を有する有識者に対して論点となっている情報の取扱いについてヒアリング
- データ取得時点の匿名化 (DID\*) ポリシーを主張

情報取り扱いに関する論点

- ✓ 個人の特定性の保護
- ✓ 収集したデータの用途や活用方法
- ✓ 一民間企業にデータ管理が集中する点